

早稲田大学審査学位論文

博士(スポーツ科学)

概要書

アンチ・ドーピング教育とスポーツの価値についての研究

A Study on Anti-Doping Education and Values of Sport

2016年1月

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科

田邊 陽子

TANABE, Yoko

研究指導教員：赤間 高雄 教授

研究の背景および目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を5年後に控え、これまで以上にスポーツに関心が高まっている。特に次世代を担う子供たちの関心は大きく、スポーツを通じた教育にも重点が置かれている。また同時にメダルや勝敗への期待も高まっている。スポーツにおいてフェアに戦うことは当然のことであるが、ドーピングなどにより現在のスポーツは、フェアであることが揺るぐ場合がある。スポーツの価値を思考する教育のひとつとしてアンチ・ドーピング教育がある。これまで様々な観点から研究されてきたスポーツと教育において、スポーツの価値教育としてアンチ・ドーピング教育を取り上げ、ユース、アスリート、コーチを対象にアンチ・ドーピングに関する意識調査を行い、アンチ・ドーピング教育の結果を把握し、問題点を明らかにし、今後のより適切なアンチ・ドーピング教育を実施するための知見を提供することを目的とする。

研究内容と成果

第3章 (研究課題1) : 第1回ユースオリンピック大会における日本代表アスリートの特性

世界で初めて開催された第1回ユースオリンピック大会(2010年シンガポール)に参加した日本代表の57人のアスリートを対象に、男子群と女子群を比較しジュニア期におけるスポーツがアスリートに与える教育的な要因を明らかにすることを目的としアンケート調査を行った。その結果、アスリートがスポーツから得られる満足に関しては、男女で有意差があり、特に男子群は直接の勝敗の結果を意識する傾向があるが、女子群においては勝敗の結果から周りの人が喜んでくれることや褒められることに意識が向いていることが明らかになった。アスリートがスポーツから得られる満足に関して影響力のある人は、コーチであることが確認された。このようにYOG大会に参加した日本代表の特性を理解することは、日本のユース世代の特性と捉えることができる。ジュニア期におけるアンチ・ドーピング教育を行う際には、アスリートに大きな影響を与えるコーチからの教育が効果的であると考えられる。

第4章 (研究課題2) : 日本とイギリスの柔道アスリートにおけるアンチ・ドーピングに関する意識調査

イギリス及び日本において柔道クラブや大学等で練習をしている柔道アスリート(イギリス43名、日本83名)を対象に、アンチ・ドーピング教育に関する認識や理解度を二か国で比較し実態を明らかにすることを目的として調査した。その結果、両国においてアンチ・ドーピング機構の存在は理解されていたが、アンチ・ドーピングの教育的な側面に対する理解は異なった結果となった。有意差があった項目に関しては、ドーピングの是非とアンチ・ドーピング教育を通してのスポーツの価値に対する項目であり、両国のアスリートでは回答に明らかな差が認められた。イギリスのアスリートは、

ドーピングの是非に関しては意見が二分したが、多くの者がドーピングは柔道の価値を下げると思っていた。他方、日本ではドーピング行為は反対であるとしていたが、ドーピングが柔道の価値を下げることに関しては、意見が分散していた。柔道(スポーツ)におけるフェアな戦いについての認識と柔道(スポーツ)の価値についての認識にイギリスと日本とで差があること、および両国のアスリートともそれらの認識が十分ではないことが示された。したがって、柔道の教育的側面とアンチ・ドーピング教育のスポーツの価値が結びつくような教育をすることが柔道アスリートに効果的であると考えられた。

第5章 (研究課題3): 日本とイギリスの柔道コーチにおけるアンチ・ドーピングに関する意識調査

日本とイギリスの柔道コーチ(日本66名、イギリス74名)におけるアンチ・ドーピングに関する意識調査を実施した。その結果、アスリート同様に、両国においてアンチ・ドーピング機構の存在は理解されていたが、コーチにおいてもドーピングの是非に対する認識に明らかな差が認められ、イギリスの柔道コーチでは意見が二分化されたが、日本の柔道コーチはほとんど否定的であった。

研究課題2, 3から、柔道アスリートと柔道コーチにおいてはドーピングの是非についての認識にイギリスと日本における国による違いが認められた。またドーピングが柔道の価値を損なうことについての認識には、アスリートでは国による差がみられたが、コーチでは両国とも多くの者がドーピングは柔道の価値を損なうと考えていた。柔道経験年数を増すことでコーチは柔道の価値やスポーツをすることの意義をアスリートより深く理解していることが考えられた。コーチがスポーツの価値をより深く理解することは、アスリートにポジティブな影響を与え得るコーチの重要な要件であり、理解すべき内容は世界的に統一されるべきものである。

結語

スポーツの価値教育のひとつとして位置づけられるアンチ・ドーピング教育をより効果的なものにするために、ユース、アスリート、コーチを対象にアンチ・ドーピングに関する意識調査を行った。アンチ・ドーピング教育においては、コーチによる直接的な指導が大きな影響を与えることが示唆され、コーチの理解度や認識度が重要と考えられた。また国によってアンチ・ドーピングに関する認識が異なるため、各国の倫理観や価値観にもとづいてアンチ・ドーピング情報を提供することが重要である。本研究で得られた結果は、アスリートやコーチに対してより適切なアンチ・ドーピング教育活動を実施するための知見として意義のあるものとする。